

テーマ型協働事業に対するコメント概要

事業名	ホースセラピーとはなんぞや【心身ともに癒せる一日を】□					
実施団体名	特定非営利活動法人 菊馬会					
協働団体	① 株式会社 サンショウ（放課後等デイサービスりんぐ）					
テーマ提示課 テーマ	障がい福祉課 地域資源を活かし、個性に寄り添う、心身障がい者（児）の療育支援					
事業概要	<p>【事業目的】 菊間町の豊かな自然と愛媛県無形民俗文化財である「お供馬の走り込み」のお供馬という地域資源を活かし、「ホースセラピー」として活用し、障がいのある方の個性に寄り添い楽しみながら自己能力を伸ばすことを目的とする。</p> <p>【事業内容】 ①ホースセラピー講習・地元説明会および適切な馬の飼育機会の確立 ②ホースセラピー体験会 ③ホースセラピーに関する知識獲得のための勉強会による人材育成</p>					
補助額	市補助額	1,000,000	総事業額	1,471,592	補助対象経費	1,469,804
コ メ ン ト	実施団体	<p><事業を実施しての効果> 子ども達や医師・看護師・保育士を含む多くの方に「ホースセラピー」の有用性について理解を深めていただけた。また、地域をあげての飼育環境の体制作りへの一歩となった。</p> <p><事業を実施しての問題点> 障がい者などが乗馬する時やセラピーを行う時は、健常者に接する時よりも注意点が多数あり、知識や研修等が不足している。一方で地元の人でもお供馬に対する現状認識が不足していることが分かった。</p> <p><問題点に対する解決策> 講習、地元説明会を開催し、参加したいと思える環境づくりをし、地元の人へも理解を促す。また、ホースセラピーを行う上で必要な知識の向上を図り、乗馬体験の手法への理解を深める。</p>				
	市民活動推進委員	<p>(1) 公益性 ・ホースセラピーによる効果は伝わった。 ・先駆性はあるが、市民ニーズを的確に捉えるまでは行っていないと思われる。 ・お供馬とふれあうことで利用者の心身や身体の治療に当たり、約500年続く伝統行事の継続を図ろうとする画期的な事業だと思う。</p> <p>(2) 継続性及び発展性 ・今回の事業は幼稚園児や放課後デイサービス利用者、不登校児等、児童参加が多いと見受けられた。事業拡大には他の階層や菊間地域全体での後押しが必要である。 ・継続性は見込まれるが、拡大という点では今一つに感じられる。</p> <p>(3) 実現性 ・事業計画や費用は適切である。 ・馬主の協力体制も構築されており、今後の実現性が見込める。 ・事業を実現化するにはニーズの把握と人材育成が重要である。これらについて、馬と同様に実施団体や協力団体も高齢の方が多いと思われるため、早期の取り組みが必要だと思う。</p> <p>(4) 団体の評価 ・活動内容は妥当。今後の活動に期待できる。 ・約500年続く伝統行事である「お供馬の走り込み」を今後も継続するため、「お供馬の引退馬」をホースセラピーに活用し、また、本事業外の団体の活動にクラウドファンディングも実施するなど、精力的に活動している。</p> <p>(5) 協働の必要性と効果 ・不登校児の外出や外部との接点になっている事業。他とも協働を進めて、いろいろな人が体験できるようになれば良いと思う。 ・この事業の協働相手は児童管理責任者とあるが、今後は高齢者も対象に事業の検討をした方がいいのではないか。近くに高齢者施設があるので、デイサービス利用者に体験してもらってはどうか。</p>				

テーマ型協働事業に対するコメント概要

事業名	ホースセラピーとはなんぞや【心身ともに癒せる一日を】□	
実施団体名	特定非営利活動法人 菊馬会	
コ メ ン ト	市民活動推進委員	
	テーマ提示課	<p>(1) 公益性 女性の社会進出やジェンダーギャップに関する事業を実施しており、市も積極的に取り組んでいるSDGsの推進につながるものと評価できる。</p> <p>(2) 継続性及び発展性 女性の活躍を推進するため、広報の仕方等を工夫し、さらなる発展につなげていただきたい。</p> <p>(3) 実現性 7回のカリキュラムの内容は魅力的で女性の活躍を推進するものであり、評価できる。しかしながら、実施回数及び参加者数に対し、講師等謝礼金の金額が高く、今後の活動において改善が必要と考える。</p> <p>(4) 団体の評価 事業実施体制についてはおおむね問題ないと思うが、会計事務等を適切に行う体制を構築いただきたい。</p> <p>(5) 協働の必要性と効果 株式会社ありがとうサービスとの協働による講演会の開催により、集客等協働の効果を発揮できたと思う。他の事業においても他の団体と協働するなど、効果的な事業の推進につなげてもらいたい。</p> <p><総評> ・女性の活躍推進、ジェンダーギャップに関する意識啓発につながる事業を実施しており、オンラインでの開催や託児の実施など、参加者の利用しやすい環境づくりを行っている点が評価できる。 ・セミナー等の開催において国や県の講師派遣事業を活用するなど費用面での工夫や、他団体との協働の推進、効果的な広報の実施などにより、ジェンダー平等社会の実現に向けて今後も積極的に取り組んでいただきたい。</p>